

15 連携プロジェクト「みんなでウパシテ!!」



収録にご参加いただいた7組8名のみなさま（五十音順）

赤坂文音（札幌駅前通まちづくり株式会社）

來嶋路子（MAYA MAXX_Luce）

今村育子（札幌駅前通まちづくり株式会社）

趙 領逸（北海道科学大学 未来デザイン学部

梅村尚幸（本郷新記念札幌彫刻美術館 学芸員）

メディアデザイン学科 教授）

小田井真美（さっぽろ天神山アートスタジオ

沼山良明（NMA 主宰）

AIRディレクター）

橋本柚香（札幌芸術の森美術館 学芸員）

トーク内容

- 広く連携／深く連携、連携のあり方の試行錯誤
- 「未来に向けて、ともに走り出してみる」という言葉「ウパシテ」
- 広報や交流、本祭を補完する観点から、いい連携ができる
- 冬のアートをさらに楽しむ、連携することで広がる新しい可能性
- もう少し踏み込んだ形の連携をする余地はあるか



インタビュー全編はYouTubeでご覧いただけます。

<https://youtu.be/6t4tbRzwmwRc>





「みんなでウパシテ!!」への継続参加について教えてください。
加えて、活動になにか変化や発展があれば紹介してください。

沼山：SIAF2017ディレクターの友友良英さんと親交があり、2024年は「大友良英 & NMA presents 札幌ミーティング」を実施しました。さらにACF（札幌芸術・文化フォーラム）という団体としてもSIAFと共催でトークを実施しまして、地元の文化関係者のみなさんとSIAF本祭とはすこし異なる視点から、SIAF2014ディレクターの坂本龍一さんを振り返るということもでき、非常にいい連携ができていたと思います。

来嶋：SIAF2024の会期中にギャラリー&カフェ茶廊法邑さんにてMAYA MAXXの展示を実施した際は、ディレクターの小川さんに来ていただき、その後も公募プロジェクトを通して出会ったみなさんといろんなところでお会いしました。2025年も再びMAYA MAXX展で連携できて、ネットワークが大きく広がったことにとても感謝しています。私たちは岩見沢で「みる・とーぷプロジェクト」という地域活動もしているのですが、SIAF2024では他団体との交流の機会も設けていただき、私たちの活動もみなさんに伝えることができ、すごくよかったです。

赤坂：2年連続で連携した「サッポロ・パラレル・ミュージアム」では、SIAFとの連携で認知が大きく広がり、SIAF2024ではディレクターや連携企業のみなさんにもご覧いただきました。まちなかで通りすがりにご覧いただくような環境で実施した展覧会でしたが、アートとしての価値を強く打ち出しつつ、アートの文脈でみんなで深く考えることができたのかなと思っています。

今村：「サッポロ・パラレル・ミュージアム」の前身として「さっぽろユキテラス」という企画もありました。パラレルになってからの変化としては、都心の回遊を目的としている企画なので、「ぐるぐる回って札幌を楽しんでもらう」というところで連携の意味は強まったかなと思っています。いつも広報に苦戦しているので、ツーリストの視点から見ても、「みんなでウパシテ!!」のように一度にさまざまな文化イベントの情報が提供されることは心強いかなと思っています。

小田井：やはり一番ありがたいのは広報面です。天神山アートスタジオは郊外の、他に文化施設がないような場所があるので、SIAFの広報力はありがたく、今後も連携を続けていけたらと思います。また天神山アートスタジオはアーティスト・イン・レジデンスの施設ですが、単に宿泊をするだけの機能ではなくて、作品が生まれるまでのプロセスを紹介して、丁寧に市民生活と接続させる等、そうした仕組みの部分でも関わられる連携ができていくといいかなと思います。

趙：今回はJR手稲駅で、北海道科学大学の学生による作品展示を行いました。メディアデザイン学科では、具体的なスキルを学ぶだけでなく、それをどう発信するのも含めて練習するような講義をしていて、今回こうして多くの方々の目に触れる機会をいただけて本当にうれしく思っています。私はアルスエレクトロニカに大きな影響を受けまして、日本でも、母国の韓国でも、それに近い機会があるといいなと思っていました。学生たちと社会の接点ももっとつくってきたいので、なにかお手伝いできることがあればお声がけいただけたらと思います。

梅村：本郷新記念札幌彫刻美術館として、札幌彫刻賞受賞記念の藤原千也さんの展覧会と、さっぽろ雪像彫刻展で連携し、広報の面で非常に協力していただいています。「みんなでウパシテ!!」の冊子がすごくいいと思っていて、当美術館は中心街から離れた場所にありますので、まず知ってもらうという点が重要だったと思っています。ただ明らかに来館者が増えたとか、そういう効果はまだ感じられていないのですが(笑)、SIAF本祭のない年もこうして地元関係者との繋がりができることはすごくいいことだと思っています。

橋本：今回は札幌芸術の森美術館で開催した「札幌美術展 マイ・ホーム(仮)」で連携させていただきました。やはり道外・国外から多くの方が観光で訪れる冬の時期に、芸術祭との連携を通じて多くの方に知っていただけたのが、何よりよかったなと思っています。札幌芸術の森は「豊かな大自然と、都市、芸術文化が調和した環境づくり自然と芸術の融合」を目指していて、札幌市南区のかなり郊外にある文化施設ですが、雪景色と芸術を一緒に楽しめる場所がある、というのを道外・国外の方に広く知っていただけた、というのがよかったと感じたところです。

2025年度
「みんなでウパシテ!!」
ガイドブックPDF

